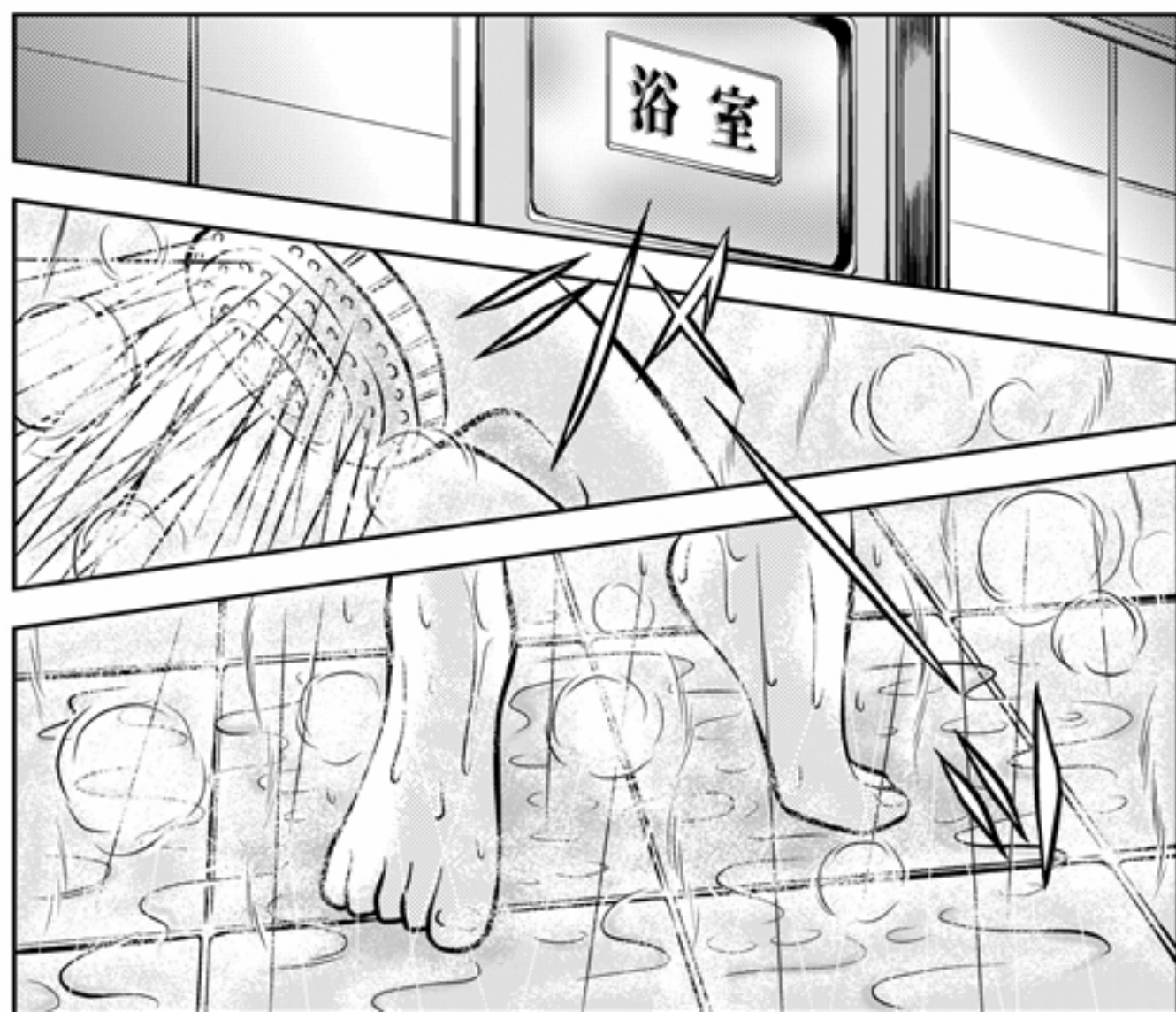
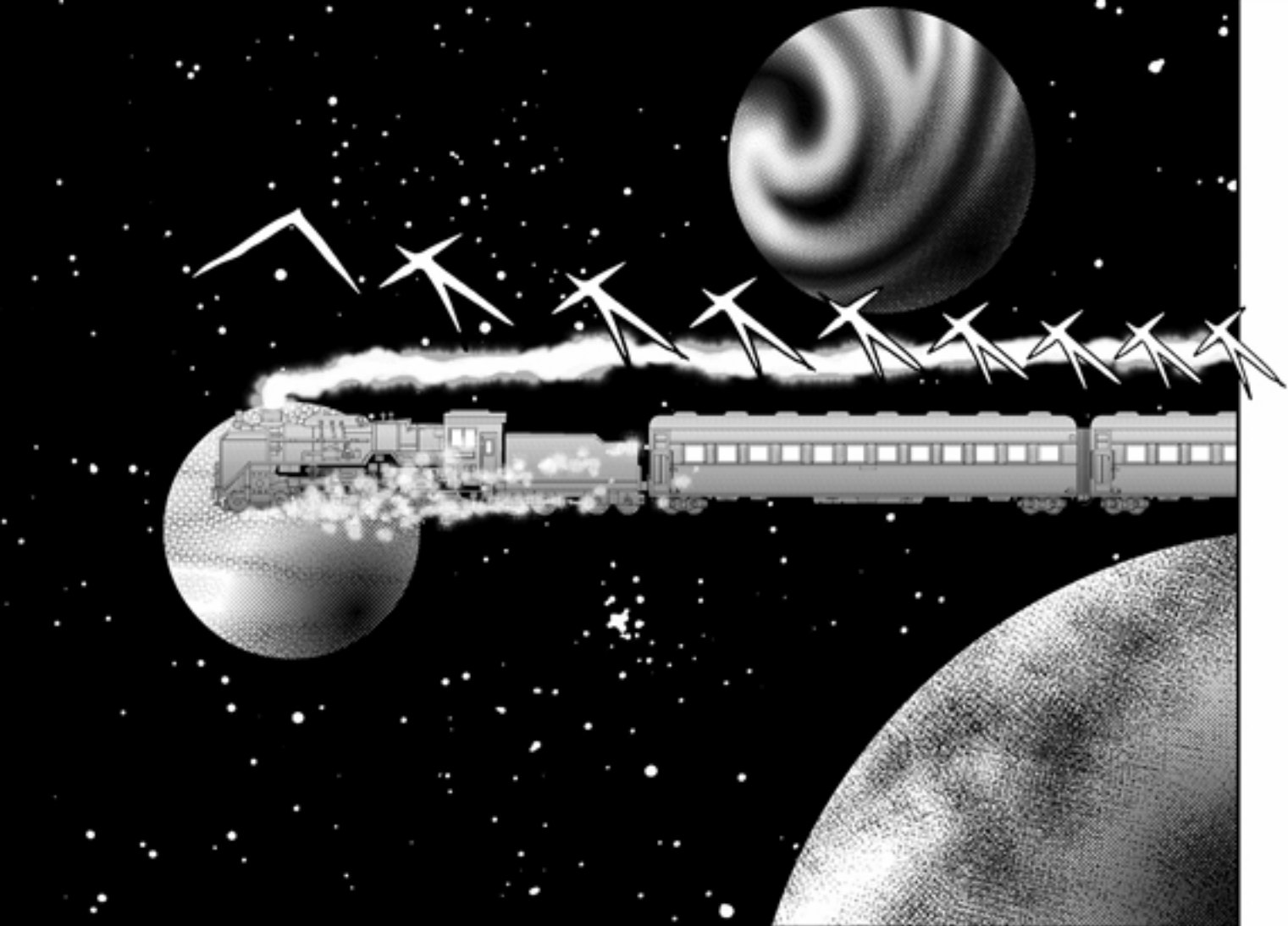


# Maetel Story 12

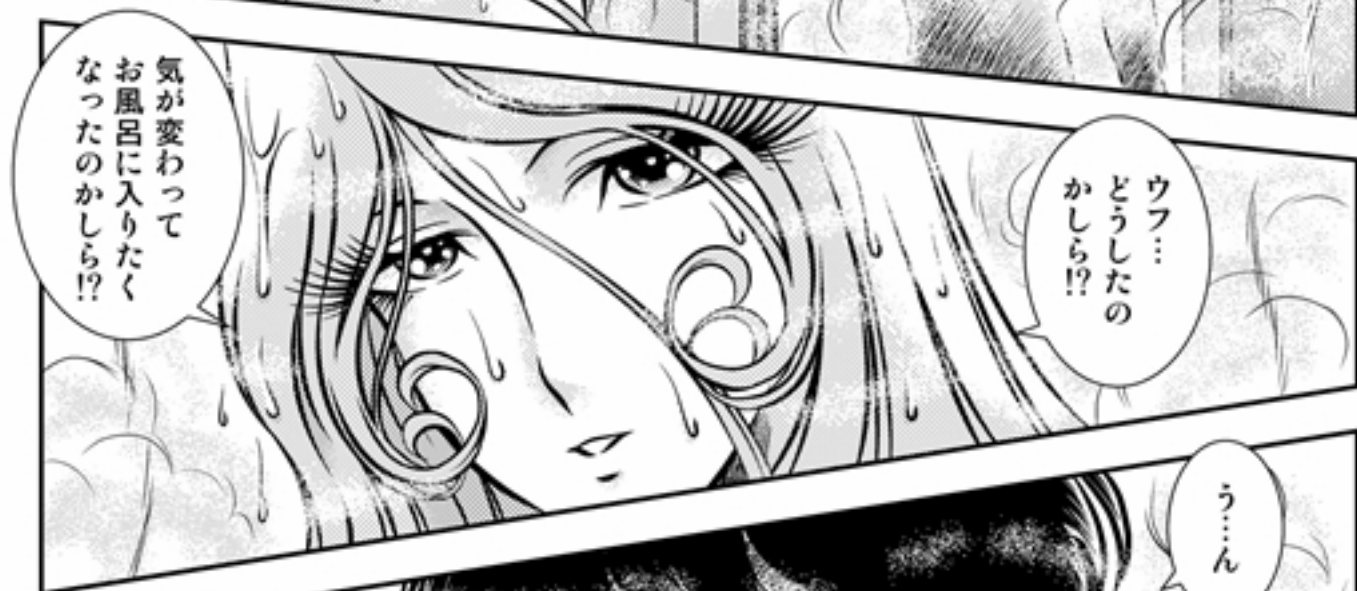
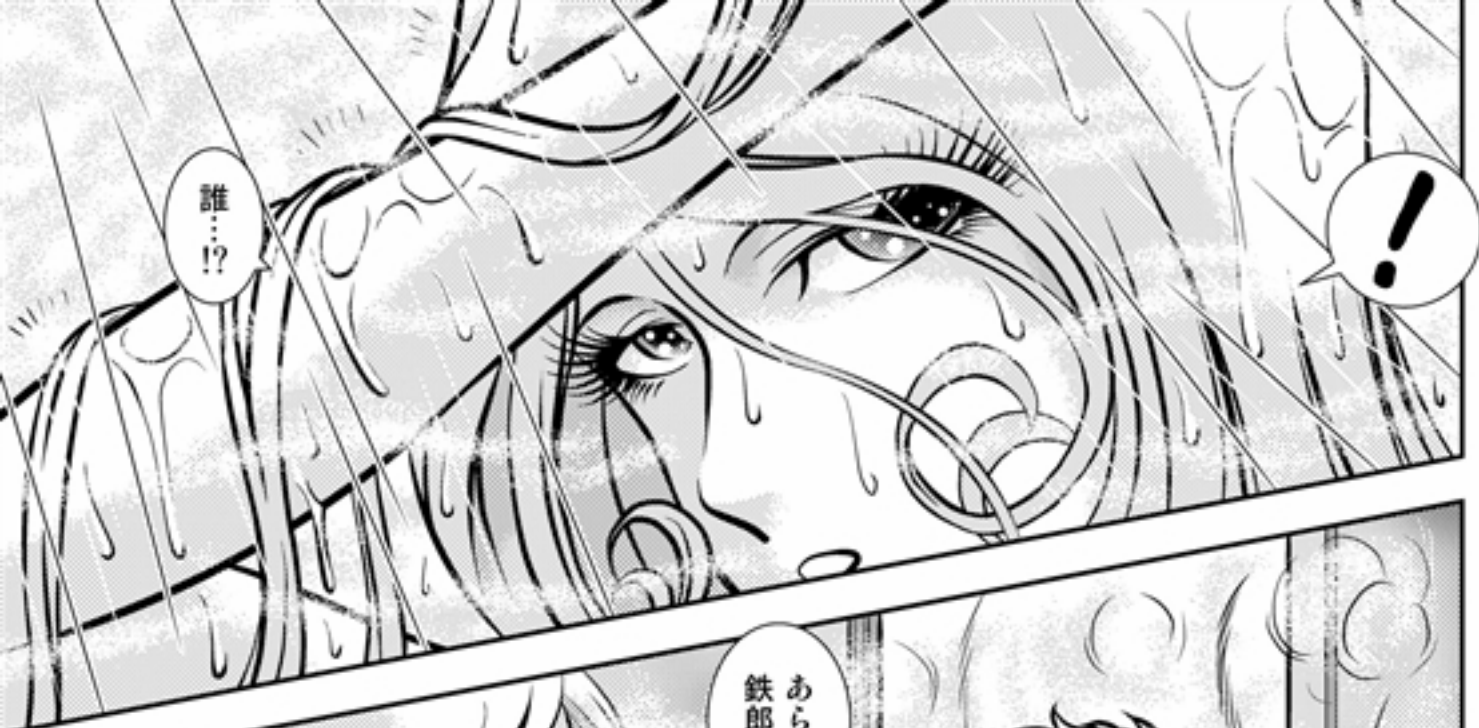
from GALAXY EXPRESS 999 with Love











クス

こっちへ  
いらっしやい

頭を洗って  
あげるわ…

気持ち  
いいでしょ…

グニグニ

グニグニ

流すわよ  
目を瞑って…

でも…  
どうして  
お風呂に入る  
気に…

なったの  
かしら…

たまには  
お風呂に  
入らないと…

メーテルに  
嫌われるんじや  
ないかと…  
思ったんだ…



私は…  
汗の匂いのする  
鉄郎も好きよ…  
でも…  
嬉しいわ

まあ…  
鉄郎ったら

グニグニ  
グニグニ



キュッ

だったら…



ここは…  
念入りに  
洗って…  
キレイに  
しておかない  
とね…

ウフフ…

さあ…  
バスタブに  
腰掛けて…  
最後は口で  
キレイにして  
あげるわ…

ウフフ…  
もうこんなになつて…

グニグニ  
グニグニ



しゃぶって  
キレイにして  
あげるわね…

ん…

しゃぶる

しゃぶる



……

んんっ…  
んむっ…

しゃぶる  
しゃぶる  
しゃぶる

もう…  
鉄郎ったら  
こんなに大きく  
しちゃって…





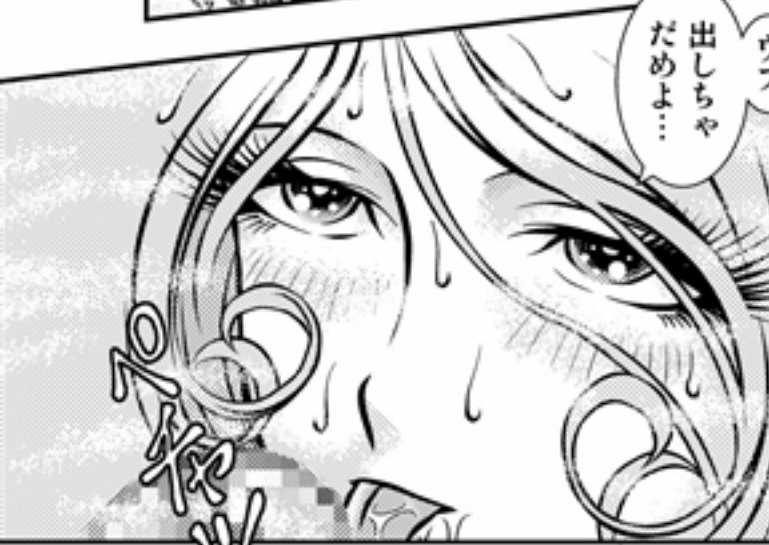
う…



ん…

おいし…

ん…



ウフ

出しちゃ  
だめよ…



んッ

キレイに  
してあげてる  
んだから…

出したら  
汚れちゃう  
でしょ…

んん…  
こんな  
固くなって…

すっかり  
キレイに  
なったわ…

んッ

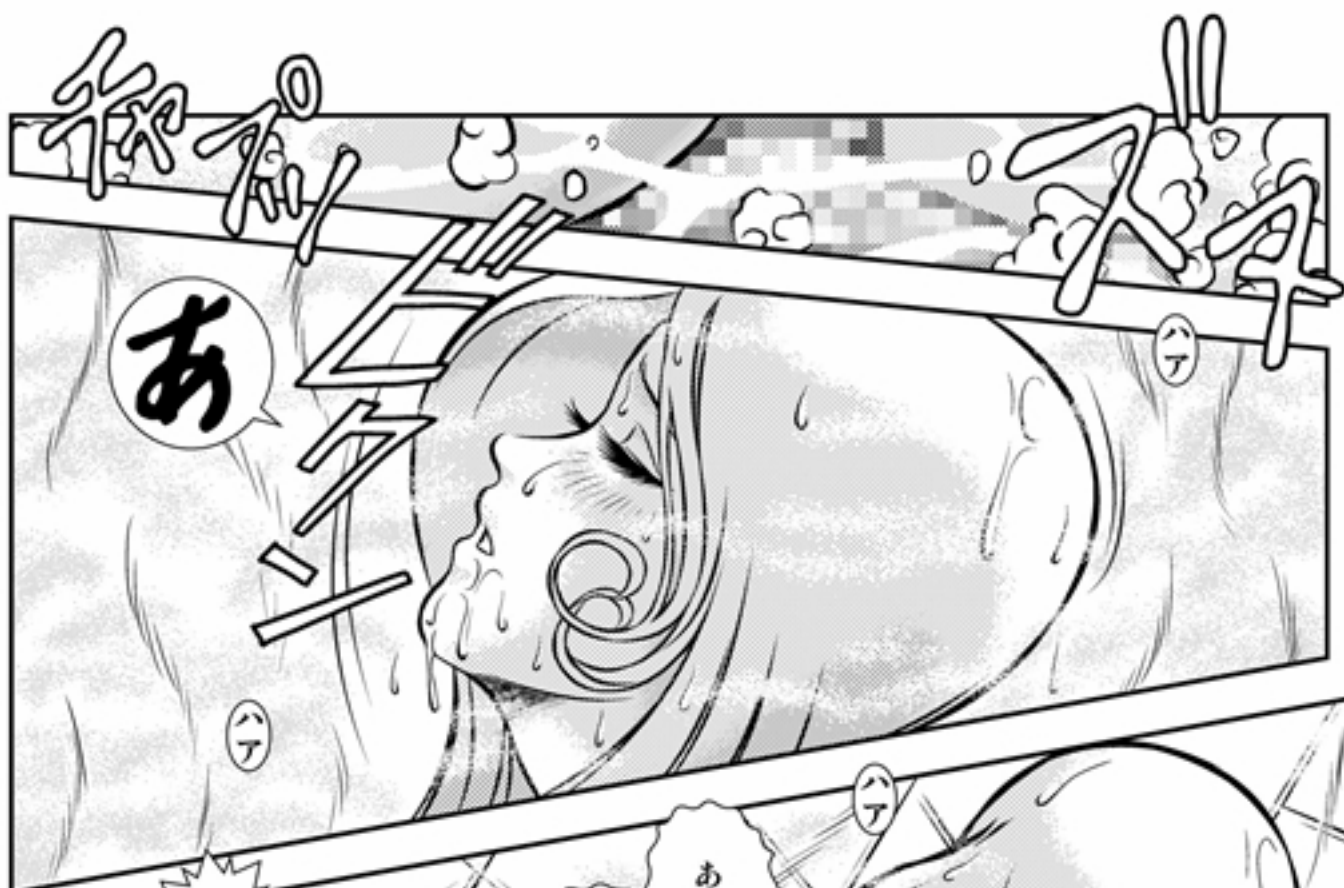
んッ



湯冷めしない  
うちに…

う…ん

さあ鉄郎…  
一緒に湯船に  
つかりましょ…



あ

初創

大平

ンッ

さあ鉄郎...  
突き上げて  
ちょうだい...

ああ...ん...  
すっかり...  
収まったわ...

んん...

メーテル...

ズッ!ズッ!ズッ!



ああ...  
気持ちいいッ

ん...  
ああ...  
そうよ...  
鉄郎ッ

その調子で  
突いてッ...

あ...

アウッ

アウッ

んッ

んん...  
感じるッ

いいわッ  
鉄郎ッ!!

ウフ...  
お風呂の中で  
するのめ  
刺激的だわ...



いいわ...  
腫に出て...

ハア

う...  
メーテルッ

フルフルッ

ハア

外に出しちゃ  
だめよ...

ハア

ハア

アッ

あ...あ...  
鉄郎の...  
熱い精子が...

一番奥に...  
届いてる...  
ああん...

ハア

あ...

アッ

アッ



イイツ

ハア

あああああ  
ああああッ

ハア

ハア

ハア

鉄郎ッ!!

ハア

うっ...

イツちやう...  
イクツ...

イクらうツ!!

アアッ

ハアッ

ハアッ

ハアッ

ハアッ

次の…  
停車駅は  
「思い出星」

停車時間は  
一週間…

「思い出星」!?

「思い出」  
だけしかない  
悲しい星よ…

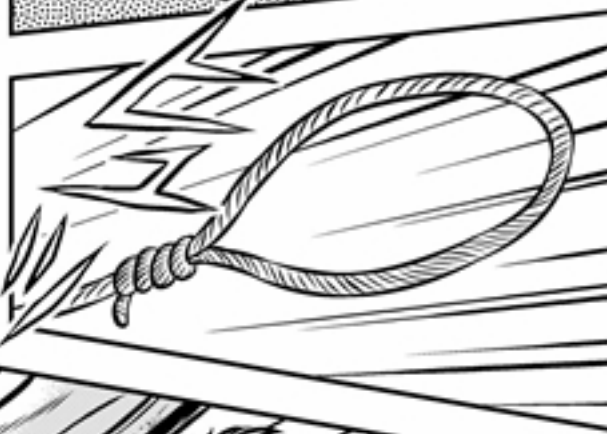
それと鉄郎…  
ひとつだけ  
よくおぼえて  
おいて…

この星では  
けっして  
人の目を見ては  
いけないわ

人間の思い出と  
いうのは…  
悲しくて…  
そして恐ろしい  
ものだから…

これは  
ゴースト  
タウンだ…

宇宙植民地には  
よくある町の  
たたずまいよ…





私は縛り首の  
プロフェッ  
ショナルだ!!

わ〜

鉄郎ッ…



どうかなさい  
ましたか!?  
お嬢さん…



えっ

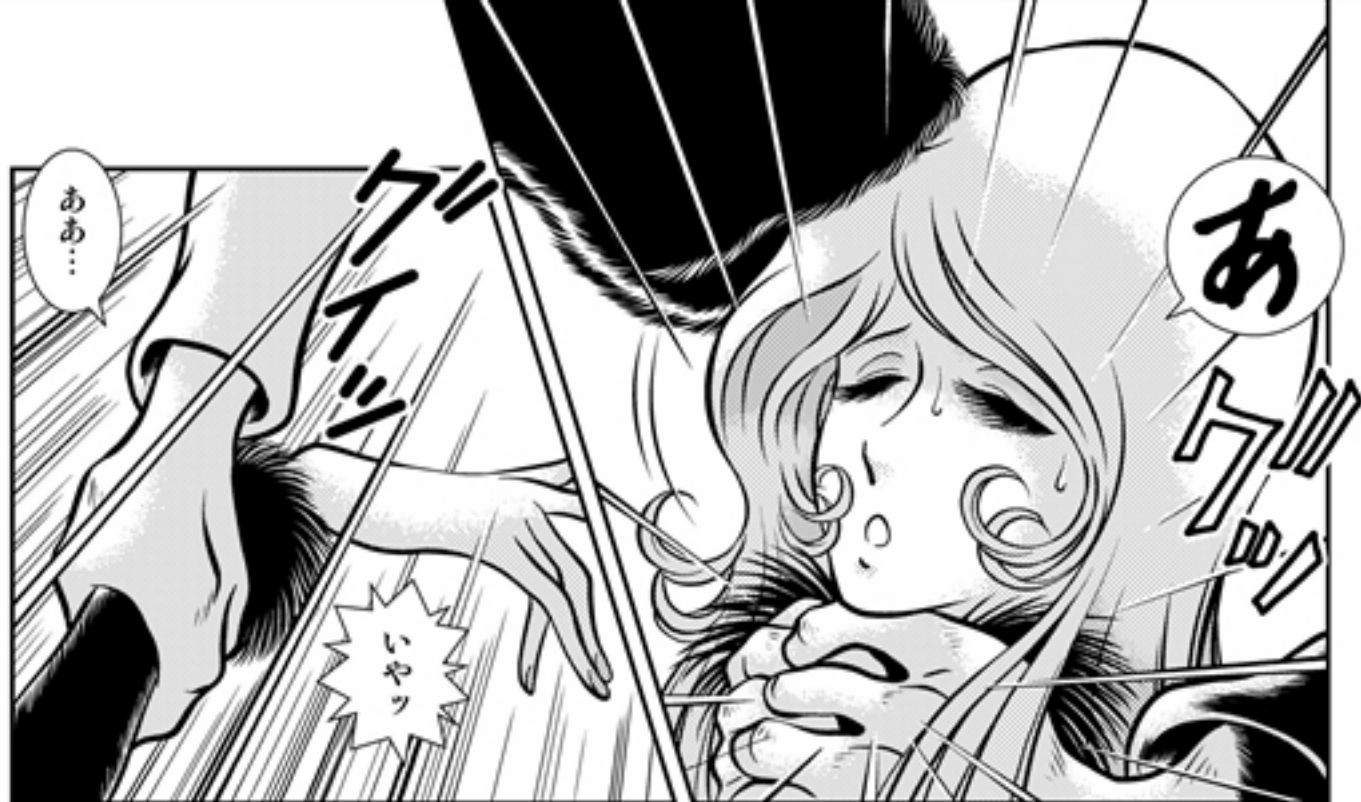
ええ…  
鉄郎が…



はッ!!  
いけない!!  
私とした  
ことが…

鉄郎の事に  
気を取られて…  
つい目を合わせて  
しまったわ…







あ…

ああ…  
ああん…

い…  
いや…

ああ…

ああッ  
だ…だめッ!!

ハア

や…  
やめてッ…

ハア

な…なぜ…  
こんな事を…

ハア

私はセックスの  
プロフェツ  
シヨナルだ!!

ハア

女を犯すことが  
私に与えられた  
使命なのだ…

だから…  
犯す!!

どんな女も  
私のテクニクに  
かかれば…  
よがり狂って  
セックスの虜さ…

ハア

ああ…  
この気持ち  
よさ…

あ…ああ…  
確かに…  
その通りだわ…

ハア

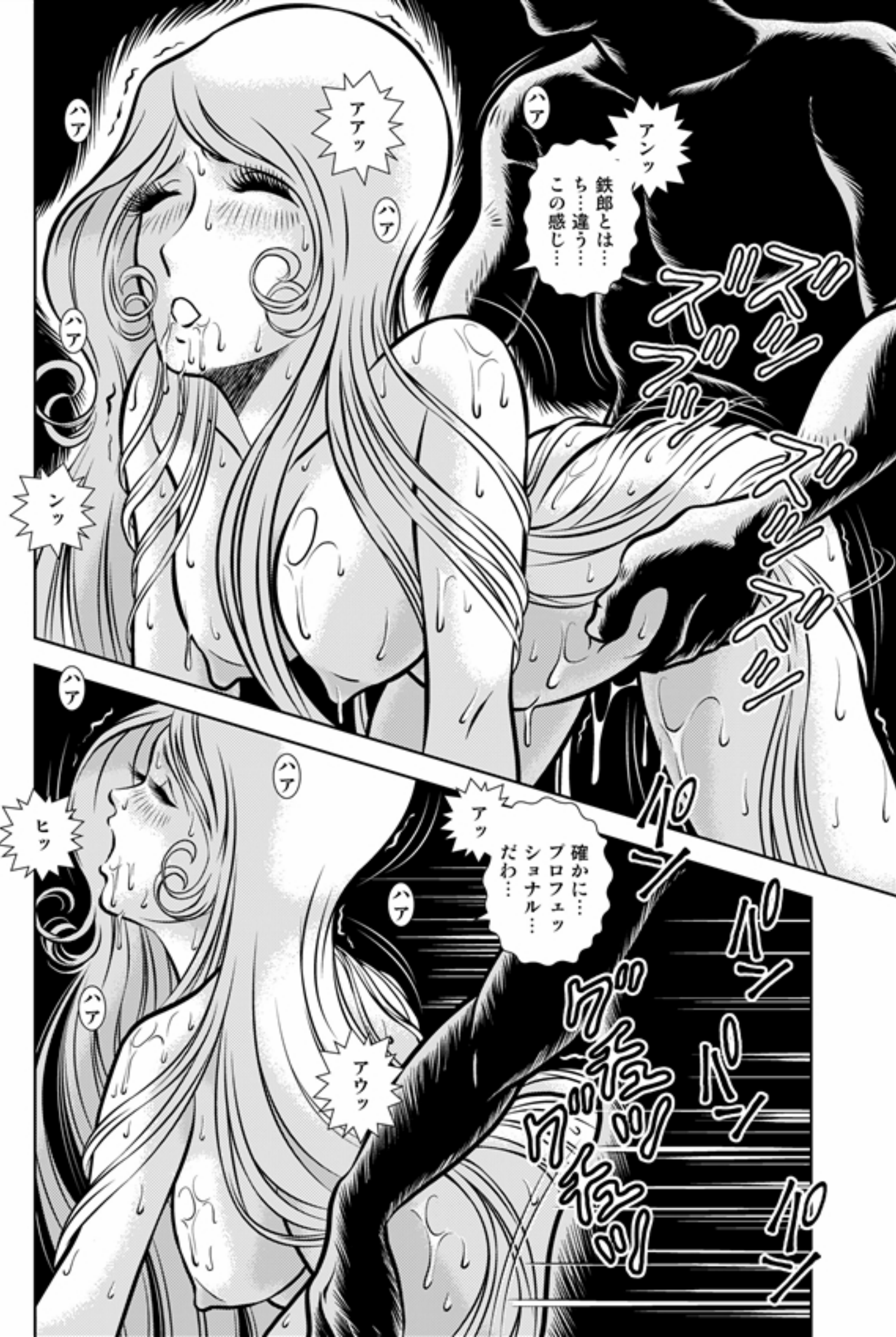
ハア

ハア

たっふりと  
色地獄に  
さまよわせて  
あげよう…

あああ…  
あん…す…  
すこいわ…

ハア



ハア

アアッ

ハア

ハア

アッ

鉄郎とは……  
ち……違う……  
この感じ……

ズッ  
ズッ  
ズッ

ンッ

ハア

ハア

ヒッ

アッ

確かに……  
プロフェッ  
ショナル……  
だわ……

ハア

ハア

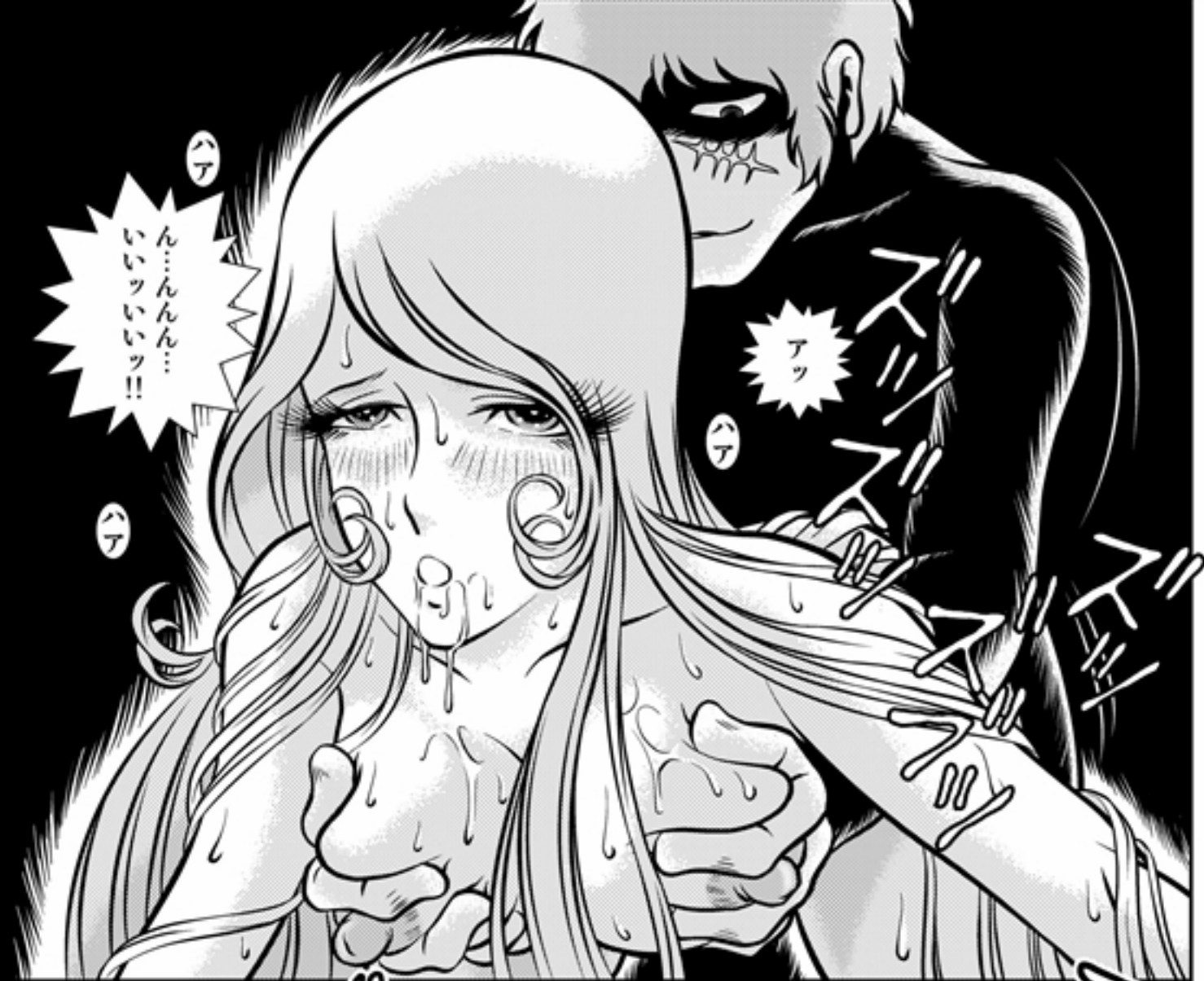
アウッ

グッ  
グッ  
グッ

ズッ  
ズッ

ズッ  
ズッ

ズッ  
ズッ



ん…んんん…  
いいッいいッ!!

アッ

スッ

スッ

スッ

ハア

ハア

ハア



だ…だめ…  
もっと…  
もっと深く  
えぐってッ!!

グッ

グッ

アアッ

ビッ

ハア

ハア

ハア

ハア

いいッ!!

すっごく…  
いいわッ!!

ハア

ハア



ああああ  
ああああッ!!

イクウツツ!!

鉄郎ッ!!

ああ…溢れる…  
す…すこい…  
し…痺れる…

あ…ああ…  
き…気持ち…  
いいッ…



お楽しみは  
まだまだ…  
これからだ…

何度でも  
天国にイカせて  
あげよう…

お…お願い…  
も…もう…

ハア  
ハア

ハア

ハア

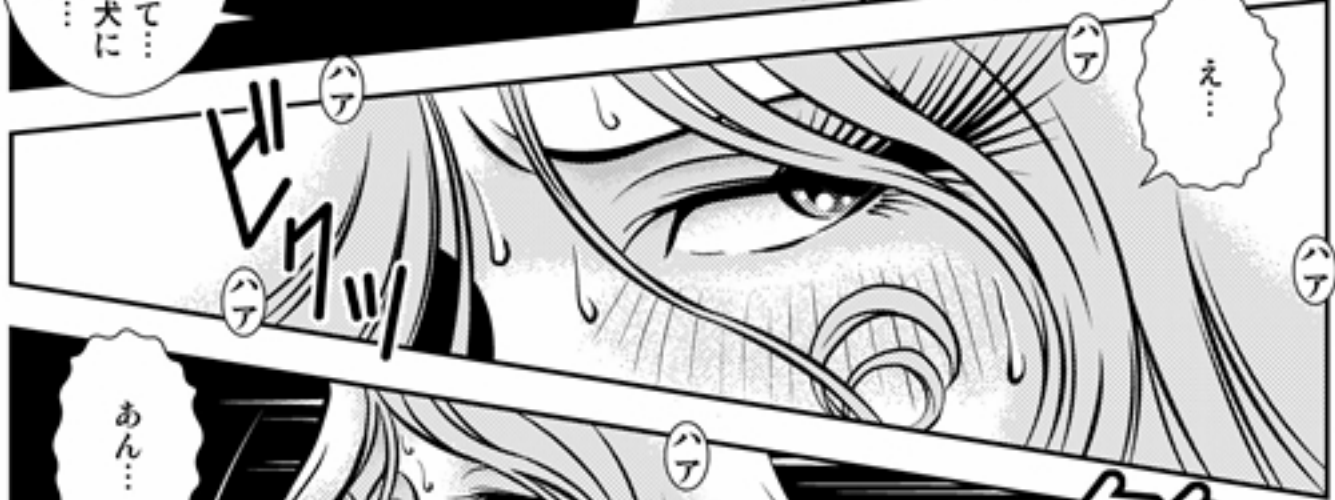
ハア



ククク…

私の精子には  
強力な催淫剤が  
含まれている…

何もかも忘れて…  
よがり狂う牝犬に  
堕ちるがいい…



え…

ハア  
ハア  
ハア

ハア



あん…

ハア

ハア

ハア

グ  
グ  
グ



男のことなど  
忘れさせて  
やろう…

ハア

アッ

ハア

あッ…ああ…  
はああ…んんッ

ハア

ハア

あ…ああ…  
だ…だめ…  
よして…

わ…私には…  
鉄郎が…

ハア

ハア

そう言いながらも  
身体は正直だ…  
すっかり蕩けてる  
じゃないか…

君はすでに  
快楽に逆らえない  
はずだ…

ああ…  
そ…そんな…  
私は…

あッ…  
はああ…んんッ

ハア

ハア

ハア

快楽に身を  
任せるんだ…  
もっと気持ちよく  
なりたいたろ…

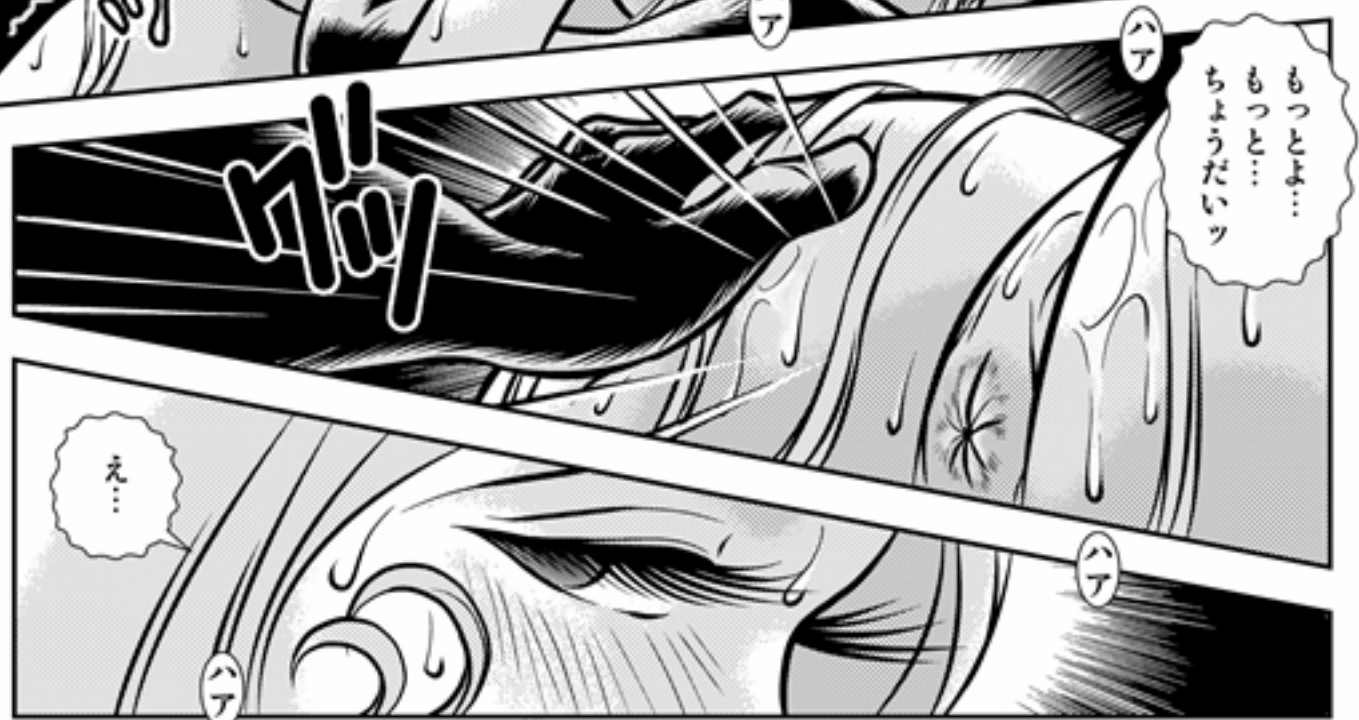
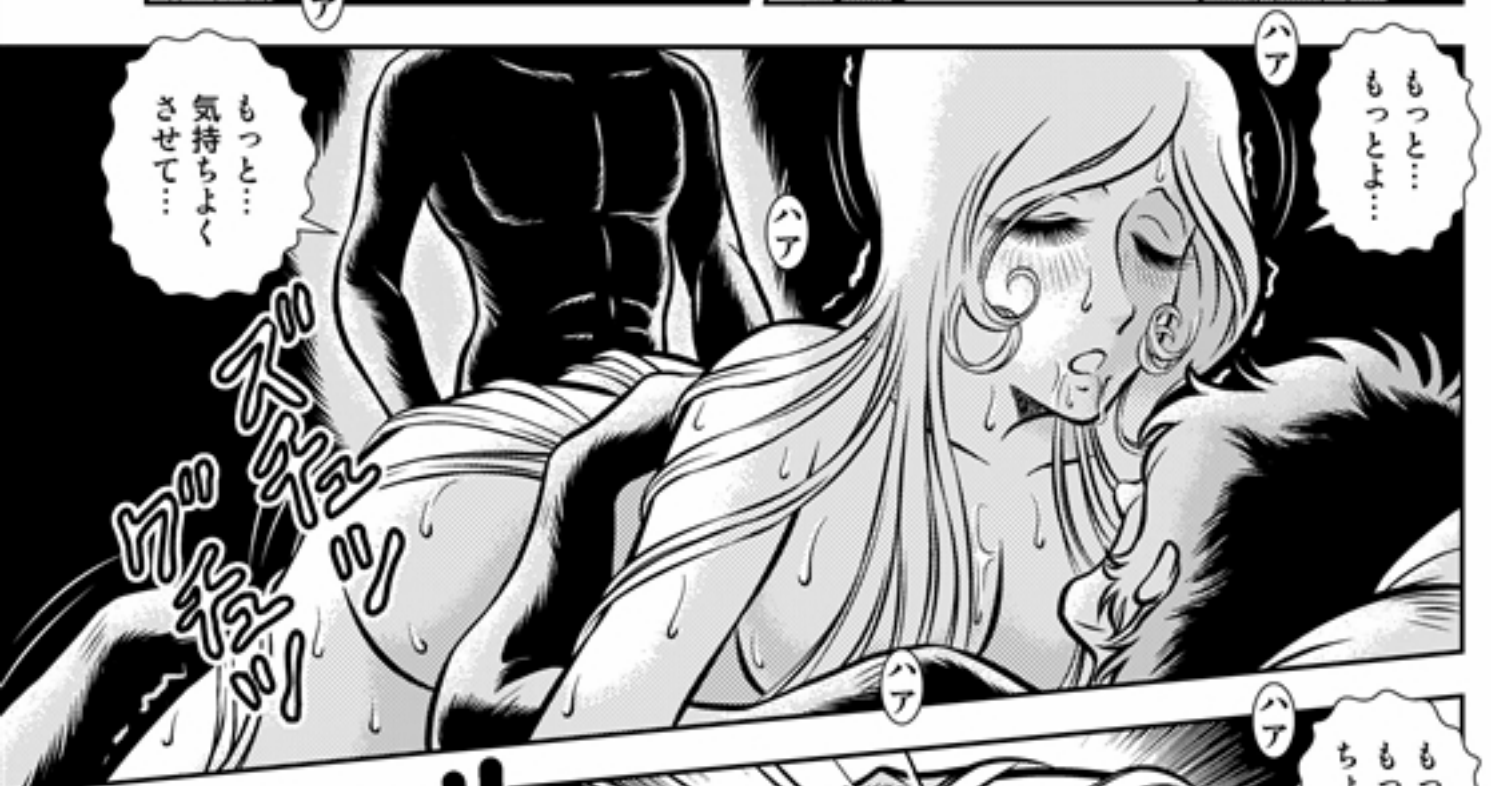
ああ…  
も…もっ…

アアッ















メチャメチャに  
してッ!!

イッイッ!!  
すっごく...  
イッ!!

アッ

ヒッ

ズッ  
ズッ  
ズッ  
ズッ  
ズッ

ズッ  
ズッ  
ズッ  
ズッ  
ズッ  
ズッ  
ズッ  
ズッ  
ズッ  
ズッ



アアッ...  
わ...私を...  
壊してッ!!

イッ

ズッ  
ズッ  
ズッ  
ズッ  
ズッ  
ズッ  
ズッ  
ズッ  
ズッ  
ズッ

アウッ











んん...んッ  
んんぐう...ッ

ハア  
ンッ

ハア

ハア

ハア

んッ

ん...んんッ  
んぐぐッ!!

ハア

ンッ

ジュッ  
ジュッ

ハア

んぐッ

お...  
おいしいッ

もっと...  
もっとッ...  
ちようだいッ

ハア

ハア

イッ...  
イイッ!!

ンッ

グッ  
グッ

ジュッ  
ジュッ

ジュッ  
ジュッ

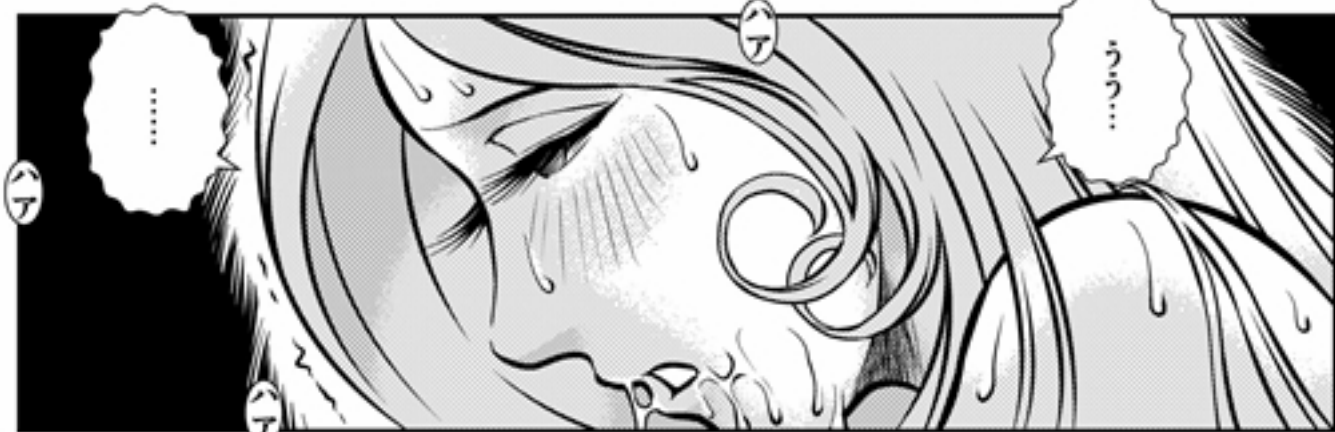




メーテル!!

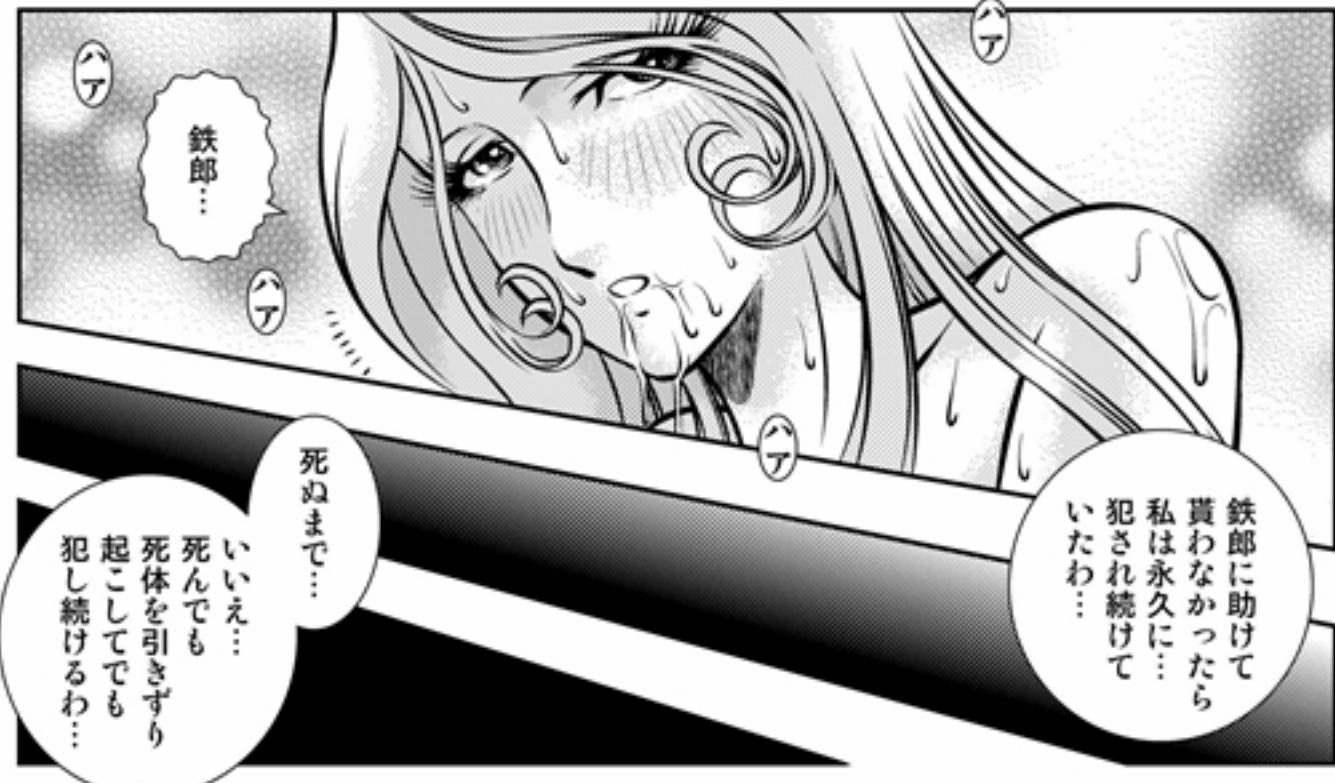


メーテル…



……

うう…



鉄郎…

鉄郎に助けて貰わなかったら私は永久に…犯され続けていたわ…

死ぬまで…

いいえ…  
死んでも  
死体を引きずり  
起こしても  
犯し続けるわ…

男達の体は  
ほとんどが  
人工部品…

生身の頃の記憶は  
かすかにしか  
残っていないわ…

その最後の記憶で  
ただひたすら  
女を犯し続けて  
きたの…

あの星は…  
戦いに疲れ…  
仕事に疲れて…  
使い古された体を  
引きずって…

旅路の終わりに  
やっとここへ  
辿り着いた  
男の住む星…

ん…

あの星は…  
自分の信じた道に  
生涯を捧げて…

ん…  
ん…  
ん…

人間の抜け殻に  
なった人達の  
来るところ…

んふ…  
んぐぐ…



僕もいつか  
あの星に行く  
事になるん  
だらうか？  
メーテル：

さあ…どうかしら…  
鉄郎が何かしらの  
プロフェツシヨナルに  
なれば分かるかもね…

んっ

キェル！！

んん…

でも私は  
あの星の人達が  
とても…  
好きよ…

んぐっ

時々…  
ああして  
破壊しなければ  
ならない事も  
あるけど…





ねえ鉄郎…  
怒ってる？

私が…  
他の男に抱かれ  
てたこと…

アッ

アーンツ

メーテル…

怒ってなんか  
いないよ…

ンツ

アアツ

それに…  
あいつらは  
機械化人間  
だろ…

ほんと？

アーンツ

気にして  
なんか…

そんな事より  
もつと腰を  
使ってよ…

あん…  
鉄郎ったら…







アッ

ヘア

イイ…  
イクツ…  
イっちやうツ

アアツ

ヘア

ハクハク

ううツ

ヘア

捨てたりする  
もんか…

愛してるわツ  
鉄郎ツ!!

ヘア

ヘア

メーテルは  
一生…ぼくの  
ものだツ!!

ヘア

アアツ

ヘア

ヘア

ヘア

ズッ  
ズッ  
ズッ

あ……ああ……  
鉄郎の精子が……  
子宮を満たして……  
全身に染みわたって  
いくわ……

この感じが……  
幸せでたまらない……  
私は……やっぱり……  
鉄郎無しでは  
生きていけない女……

私はメーテル……  
死ぬまでずっと  
永遠に……  
鉄郎に身も心も  
捧げた女……

## あとがき・・・

このたびはMaetelStory12をお買い上げいただき、ありがとうございます。

次回13作目の内容はまだ未定ですが、原作のネタから離れてオリジナルな話で描いてみたいな、と思っていたりもします。

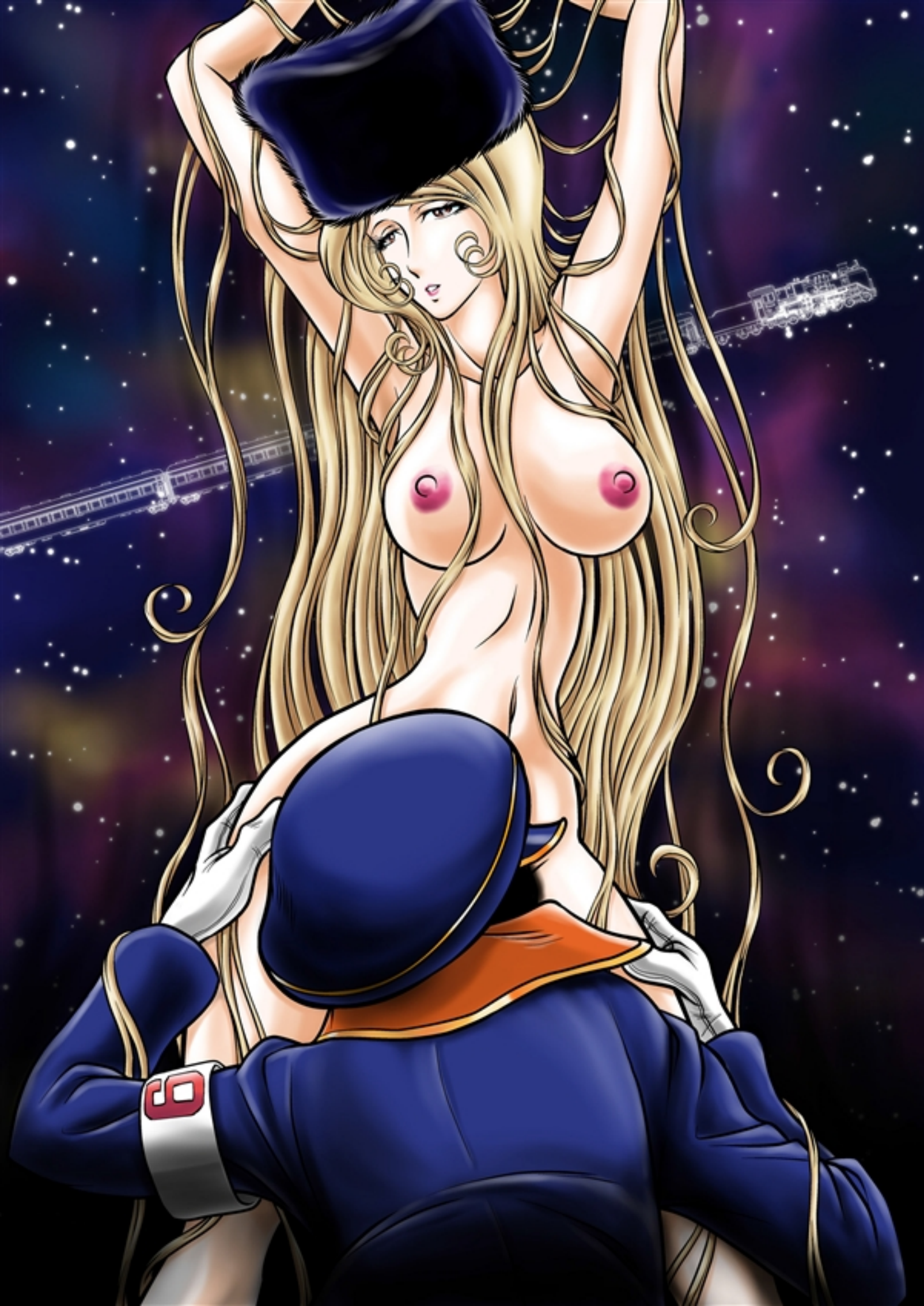
まだまだ構想中の段階なので、どうなるか分かりませんが、楽しんで頂けるような作品が出来たらいいな、と思っております。

感想などをお聞かせいただけると、次回作への励みとなります。

ありがとうございました。

でわ。











Kaguzahime